

キャリア教育研究委員会

一 テーマ

児童生徒一人ひとりが夢や希望をもち、自己実現を目指して自己の個性を理解し、主体的に進路を選択しようとする能力や態度を育てていくキャリア教育のあり方

二 テーマ設定の理由

小・中学校での「キャリア教育」を充実させたいという願いは、多くの学校で多くの先生方がお持ちであろうと思う。生きる力として、将来に直結するキャリア教育は、児童生徒の人格の形成上、大切な教育活動のひとつである。しかし、各校では係を設置して計画は作成したものの、実際どのように教育課程の中に位置づけ、具体的にどのように進めていけばよいのかが明確になっていないのが現状であろう。

本委員会では、各校でキャリア教育をどう教育課程に位置づけ、どのように関連する諸活動を体系化していくのかを示す「上小キャリア教育モデル」の作成及び、各校の実践事例を共有し合うことをここ数年来取り組んできている。昨年度は、多くの中学校で取り組んでいる職場体験学習について、行政主導で先進的な取組をしている東京都千代田区の中学校を訪問し研修を行ったことや各小中校の実践事例の紹介を委員会内で進め、情報発信してきた。今年度は各校の実践事例の共有と、キャリア教育の推進・学校作りを実践している県内の「伊那市中学生キャリアフェス」を訪問し、引き続き中学校の職場体験学習をキャリア教育の一環としてどのように進めていくかを研究したいと考えた。

三 研究の経過

- | | |
|---------------|---|
| 5月 7日…第1回委員会 | 研究の方向の確認 |
| 6月18日…第2回委員会 | 各校キャリア教育の年間計画の共有
講話「牧内隆則先生（青木中学校）」の実践に学ぶ |
| 11月14日…第3回委員会 | 「伊那市中学生キャリアフェス」視察 |
| 11月28日…第4回委員会 | 視察報告、研究のまとめ |

四 研究内容

1 講話から

(1) 牧内隆則先生（青木中学校）の実践に学ぶ

① キャリア教育の定義

- ・キャリア教育とは100年を生きるために、今をどう生きるか。答えがないものを問答え続けるために必要な力をつける教育である。



②具体的な活動

- ・言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫
- ・記録、要約、説明、論述など国都で培った能力を基本として教科を越えて活動する
- ・思考力、判断力、表現力を育成させていく授業改善
- ・学校全体で言語活動を充実させるカリキュラムマネジメント
- ・今までやっていること（×新しいこと）→どういうつながりをつくるか。つける力を明確にしていく。

③キャリア教育で学校を変える

- ・地域に開かれた学校、地域の伝統文化を文化祭で発表
- ・地域の財産（お祭り、地域行事など）の活用
- ・学びを校外へ発信し、人とつながり、新たな活動をする

(1) 各校の指導計画等の情報共有

- ・年間指導計画等
- ・職場体験学習指導計画等

2 「伊那市中学生キャリアフェス」視察から

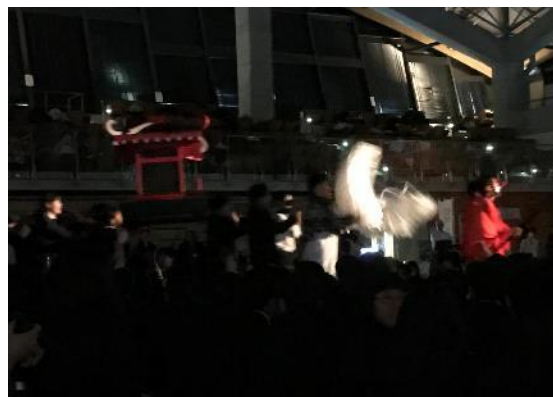
(1) 概要

- ・主催：伊那市中学生キャリアフェス実行委員会
- ・後援：郷土愛プロジェクト
- ・今年は中学2年生、約650人が参加した。
- ・各校の実行委員が企画運営をし、オープニング、クロージングセレモニーを行う。
- ・参加事業所・団体が103のブースを設けて体験や説明、交流した。



オープニングセレモニーの様子

各校の実行委員（中学2年生）が企画をし、各校の紹介や地域の伝統行事の紹介が行われた。



各ブースの様子

- ・写真の展示、体験
- ・会社の概要説明
- ・何のために働くのか
- ・「他喜力」
- ・なぜこの地域で働いているのか
- ・どんな思いや願いをもって働いているのか など



(2) コーディネータ (久保村英未子さん) のお話

- ・地域で子どもを育てよう～子どもは地域の宝・地域の未来～という伊那市キャリア教育憲章の理念の下、市内6校の中学2年生を一堂に集め、中学生が地域を知り、地域の人とふれあい、地域の未来を考えるきっかけとなるようにという願いから始まった。
- ・企業フェスではない。企業アピールや宣伝の場ではなく、上記の主旨を説明して賛同した企業に参加してもらっている。
- ・職場体験ではなく、職場の人の思いを語ってもらっている。
- ・生徒には自由にブースを見てもらっている。見学計画を立てさせたり、ここを聞いてきなさいと声をかけたりしない。何を感じたかを大切にしている。

(3) 視察の感想 (委員より)

- ・キャリアフェス1回目を行うにあたり、学校の願いを理解して市や企業にもその願いを1人で50社以上も回ったと言うことをお聞きしました。多様な文化や教育に触れたご自身の経験も生きていらっしゃるのでしょうか。教師や学校の熱が必ず誰かに理解され、つなぐ人が現れるという循環がわかりました。
- ・ブースは企業だけでなく、職業体験が受け入れにくい業種への理解ができるのがよい。弁護士会、会計事務所、自衛隊 など
- ・職業を選ぶ自由はあるけれど、選ぶ力が乏しいために大人になってから生きづらさを感じてしまう子どもが多いと思います。さまざまな大人の生き方に触れ、なるべく早い段階から失敗を重ねながら試行錯誤する経験をし、自分で考える経験をさせることが必要だと感じました。

五 研究のまとめと課題

今年度はキャリア教育について講師の方の実践をお聞きしたり、学校や地域の企業、市の先進的な取り組みをしているキャリアフェスを視察したりして、その実践から学ぶ貴重な機会であった。今年度のテーマに向けては、各学年、各教科でキャリア教育的な視点をもった授業実践の情報を共有することができた。キャリア教育に大切なことは、キャリアという視点で社会に出るまでにどういった力をつけるのか、ということを確認にして学習していくことである。単に職場体験をすることがキャリア教育ということではない。また、職場体験学習だけで力をつけることも難しい。よって、各校、各学年、各教科で、どのような力をつけるのか、そのためにどのような授業を構想するのかということを確認していく必要がある。新しいことに取り組むというよりも、今行っている行事や活動などをキャリアの視点で見返すことを実践していきたい。

来年度に向けては、今回の講話や視察を踏まえて、さらに各学校・各学年・各教科でキャリア教育的な視点をもった授業づくりを目指していくことを目的とし、行事や教科、キャリア発達段階とのつながりを探っていききたい。

「具体的な取り組みとしての提案」

(1) 社会や地域と結びついた活動の見返し

- ・キャリア教育の視点をもって発達段階を踏まえた教育活動、指導計画作成
- ・各校の実践や指導計画の共有

(2) 地域人材とのつながり

- ・行政、産業界の方とつながる機会をもつ
- ・各校での地域人材とのつながりを情報共有

(3) 視察の継続

- ・他地区（県外を含む）での視察を継続し、上小地区でどう活かしていくか検討
- ・視察をとおして学んだことを各校へ持ち帰り、指導計画等に活かす方法を探る

六 委員名簿

推進係	青木村立青木中学校長	依田 俊一
委員長	上田市立塩田中学校	牧島 洋平
委員	上田市立第二中学校	富山 貴子
委員	上田市立丸子中学校	掛川 喬司
委員	東御市立東部中学校	渡邊 壮彦